

日本咳嗽学会

研究委員会

2022年10月発足

遷延性または慢性咳嗽などの長引く咳嗽を患う成人は、本邦において約300万人と推定されている。長引く咳嗽は、社会生活の質や労働生産性の低下・身体的負荷・睡眠障害・抑うつ・経済的負担など様々な影響を及ぼすことが報告されている。長引く咳嗽を患う患者のうち、医師に相談したものの治療に満足しなかった割合は約16%とされる。これは慢性咳嗽の原因疾患に対して診断や特異的治療が十分にされなかった可能性や、治療抵抗性の難治性咳嗽の存在などが一因と考えられる。本委員会では慢性咳嗽の病態・治療・管理についての多機関共同研究を進め、より良い診療につなげることを目的とする。特に難治性咳嗽の原因の解明を目指す。

1. 具体的活動内容

本学会員およびその参加施設において、慢性咳嗽に関する研究、特にその難治例に関し、実態調査を含めて原因解明や新規治療・管理につながる多機関共同研究を行う。

このため学会員から広く研究テーマを募り、その実現可能性や将来展望を以下の委員を中心として検討する。

委員長；

関西医科大学医学部 内科学第一講座 石浦 嘉久

委員（五十音順）

金光 禎寛 名古屋市立大学大学院医学研究科 呼吸器・免疫アレルギー
内科学

原 丈介 金沢大学院医薬保健学総合研究科

松本 久子 近畿大学医学部 呼吸器・アレルギー内科

山田 武千代 秋田大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科